

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：43807

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530776

研究課題名(和文) 介護施設における「災害過程」対応教材・研修プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of care training programs (including material) for nursing care facilities at the time of a disaster

研究代表者

鈴木 俊文 (SUZUKI, TOSHIFUMI)

静岡県立大学短期大学部・その他部局等・講師

研究者番号：60566066

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、被災した介護施設の生活支援(介護)に必要な知識や技術・行動力を習得するための教材と研修プログラムの開発を目指したものである。教材開発では、震災・水害・土砂災害によって被災した介護施設の災害過程を調査・分析し、その結果をケースごとに集積し、災害過程で生じる主要な変化をアセスメントするための演習ワークシートを開発した。そのうえで、これを用いた研修のプログラムを作成し、数回のモデル研修を実施。結果、本研究の成果は、災害イメージを具体的に得られる効果を見出すものであり、特に机上・図上訓練としてのアセスメント演習が、各種のマニュアルや備蓄の見直しにつながることを明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：This study develops educational materials and a training program to help staff at nursing-care facilities acquire the necessary knowledge, skills, and abilities to assist residents in the wake of a disaster. To develop the materials, the disaster process of nursing-care facilities damaged by earthquake, flood, or landslide disasters were surveyed and analyzed. The results were examined on a case-by-case basis, and an exercise worksheet was developed to assess the major changes that occurred during the disaster process. Subsequently, a training program centered on this worksheet was created and piloted several times. The study succeeded in helping participants to develop a detailed sense of what happens in a disaster; in particular, the assessment exercise, which took the form of a Disaster Imagination Game, prompted a reconsideration of the various manuals and stockpiling systems previously used by the participants' facilities.

研究分野：社会福祉学 介護福祉

キーワード：災害福祉 災害介護 災害過程 災害過程対応教材 災害研修モデル

1. 研究開始当初の背景

(1) 地震大国といわれる我が国は、阪神淡路大震災(1995年)、新潟中越地震(2004年)、さらに東日本大震災(2011年)等が発生し、被害は後を絶たない。中でも東日本大震災では、これまでの災害経験によって蓄積・開発された災害支援システムや防災マニュアルの限界と課題が浮き彫りになった。このため、地域防災学や地震学をはじめとする学際的な各種専門学会の他、県や市町村レベルでも災害支援マニュアルの見直しが急ピッチで進められている。このうち、高齢者・障害者等の要援護者への対応は被災時に発生する生命維持レベルの緊急対応に止まらず、合併症の予防等、制限された環境下での長期的支援のあり方が介護現場の大きな課題であることが明らかとなっている。

(2) 国内の研究動向を見ると災害支援に関する数多くの研究はあるものの、「被災した介護施設の介護内容」に焦点を当てた研究は極めて少ない。1995年の阪神淡路大震災以降、震災をはじめとする災害への対策が全国的に注目されるようになり、高齢者や障害者等の社会的弱者への対応は防災マニュアルの対象として整備されつつある。介護施設に対しては、地域特性を含めながら各自治体が独自に防災対策マニュアル(*1、*2)を発行する等の動きも活発になっている。これらは災害時に一定の効果を生むものと期待される一方で、あらゆる被害に有用とはいき切れず、多様な災害特性の把握やそれに対応した防災・減災対策上の課題は少なくない。こうした状況を踏まえると、高齢者・障害者が暮らす介護施設での地震等災害発生以降、介護内容を含めた対応について長期的な視野での一歩踏み込んだ検討と対策が求められる。

(3) このような問題意識から、筆者らはこれまでに大地震で被災した高齢者施設、身体障害者療護施設の被災時における介護内容の実態、すなわち、被災直後から平常時に

向かう期間に提供された介護内容に焦点を当て研究を進めてきた【科学研究費補助金基盤研究C課題番号:21530641】。その結果、被災した介護施設で行われる介護内容には、各施設に共通する四つの主要な変化が存在することが明らかとなった。これらは、設備・ライフラインが支える通常業務、救援物資によって混乱する介護業務と介護内容、緊急入所・避難施設としての役割変化、震災直後から平常時に向かう過程でのネットワーク形成とマンパワーの温度差、である。特に日常生活に直結するライフラインの損害については、早い段階で代替品の確保が可能であれば、通常業務から逸脱した介護内容は発生しないことも明らかになった。

(4) 筆者らの研究で導き出した四つの主要な変化を一つの「災害過程」として捉え、ケースごとに立体的かつ科学的な記述を集積していくことは、災害支援マニュアルや研修用教材作成に有用であると考えた。なぜならば、状況が刻々と変わりゆく被災時には、環境の変化や予測不能な事態に対応するための対策は、極めて個別性が高いものであり、そのためには普遍的なマニュアルよりも、実際のケースから災害過程の活動イメージを捉えることが不可欠であると考えからである。災害過程をケースとして記述する研究には、民族学で知られるエスノグラフィーを用いて災害過程の内実をまとめたものが多く、これらの成果は内閣府がまとめた「防災に関する標準テキスト(平成18年度)」でも報告されている。これらは災害時の対応者の証言を中心に構成され、一般市民を対象としたワークショップの事例教材としての活用をおして、疑似体験や災害時での暗黙のルール等を体系化する上で効果があり有用であることが明らかになっている。このような手法は介護施設職員を対象にした場合も同様に有用であると考えられる。以上の先行研究からの知見をふまえ、本研究では発災時か

ら平常時に至る施設の介護内容をエスノグラフィックアプローチによって探求すると共に、これらを災害対策の視点でより詳細にまとめることは、各種の災害支援マニュアルの作成・見直し、および災害支援に有用な研修教材を作成する上で、極めて重要な基礎資料になると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、自然災害で被災した高齢者・障害者等の介護施設に従事した職員の業務・支援の実態を分析し、被災した介護施設の生活支援（介護）に必要となる知識や技術・行動力を習得するための教材・研修プログラムの開発・作成を目的としている。具体的には過去7年間に発生した災害の中から地震・水害に焦点を当て、発災から平常時に至るまでの被害状況と、提供された介護の内容や職員体制、被災時における家族や地域との関わりや役割を明らかにし、これらの実態に基づく事例教材の作成と介護福祉専門職者を対象にした研修への導入を目指す。

3. 研究の方法

本研究は次の3段階の計画で進めた。

(1) 自然災害で被災した高齢者・障害者等の介護施設に従事した施設職員の業務・支援内容の実態をケースとして分析。ここではエスノグラフィックアプローチを採用し、被災時に行われた活動を災害対応者からの聞き取り調査によって収集すると共に、発災時から平常時に至るまでの主要な変化を概念化・構造化することを目指した。本研究においては震災に加え、近年被害が増加している水害にも焦点を当て、その被災地の介護施設及び災害支援関連機関を訪ね、施設職員及び関係者への聞き取り調査を実施した。特に筆者らのこれまでの研究成果をベースデータにしたインタビューガイドを柱に、災害過程をケースごとに記述していく手法を用いて「介護施設の災害エスノグラフィー」を作成した。

(2) 調査結果をデータにし、被災した介護施設の生活支援（介護）に必要となる知識や技術・行動力を習得するための教材・研修プログラムの開発を行った。ここでは、机上・図上訓練としての災害過程分析と、自施設に必要な防災・減災の視点を明らかにするための事例教材と演習ワークシートの開発を力点に取り組んだ。

(3) 介護施設職員を対象にした研修会・ワークショップを開催した。その結果を基に教材・研修プログラムを再考した。ここでは、当日の研修開始前後にアンケートを実施し、得られたデータから受講者の意識変化を考察することで、本研究の効果を検証した。

4. 研究成果

過去7年間に発生した災害の内、地震・水害に焦点を当てた現地踏査及びヒヤリング調査の結果を集積した研修教材「災害時の介護 介護施設が巻き込まれる5つの変化」を開発した。これを活用したモデル研修は、東海地震が予測されている愛知・静岡・三重の3県で行った。具体的には、導入：介護施設における防災・減災研修の考え方の紹介、グループワーク：自職場における災害対策・研修の現状等情報交換、講義：被災事例から考える！災害対策のポイント、演習：職場での防災研修（災害過程対応）づくりに向けて、災害過程アセスメントシートの使い方の5つで構成し実施した。以上のモデル研修の成果を分析・考察した結果、本研究の成果は災害イメージを具体的に得られる机上・図上訓練としてのアセスメント演習の効果・影響が最も大きく、今後は次の2点が課題になることが明らかになった。

(1) 自職場でアセスメント演習を行なうために必要な教材作成を進める必要性。これはアンケート結果において現状の災害対策として最も多く取り組まれているものが「避難訓練」であったことに対し、本研究で開発したモデル研修受講後アンケートでは今後

最も必要な取り組みとして「机上訓練（図上訓練）」としてのアセスメント演習が挙げられたことによる。これは、被災事例をケース教材にした災害過程の紹介と、災害過程に対応するために必要な「備え」についてアセスメントすることを目指したアセスメントシートを活用した演習である。今後は、これを自職場で活用するために必要なマニュアルを追加した教材に改変していくことが求められると考えている。

(2) アセスメント演習を備蓄やマニュアルの見直しにつなげていく課題。これは、モデル研修受講後アンケート結果において、今後最も必要な取り組みとして、机上訓練（図上訓練）に次いで防災マニュアル作成、備蓄品の定期的な管理が挙げられたことによる。この結果は、先に述べたモデル研修の効果がマニュアル作成や備蓄の見直しにつながる可能性を示唆するものであり、今後は各施設で取り込まれる防災及び減災の取り組みの実態や具体的な変化を調査していくことを課題とする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

鈴木俊文、立花明彦、瀧口晋、新潟県中越地震における身体障害者入所施設「施設災害過程」の分析、介護福祉教育 34 査読無 2014、p27-38.

鈴木俊文、立花明彦、瀧口晋、福祉施設における災害対応研修モデルの開発に向けた取り組み 震災ケースメソッドを活用した災害過程アセスメントツールの効果と課題、介護福祉教育 37 査読無 2015、p84-88.

〔学会発表〕(計4件)

鈴木俊文、立花明彦、瀧口晋、新潟県中越地震・中越沖地震における施設「災害過程」の分析、第19回日本介護福祉教育学会、2012.

鈴木俊文、立花明彦、瀧口晋、大地震で被災した入所型介護施設における「災害過程」の記述的研究 マトリックス分析による概念モデルの検討、第60回日本社会福祉学会、2012.

鈴木俊文、立花明彦、瀧口晋、福祉施設

における災害対応研修モデルの開発に向けた取り組み 静岡県における災害対策基礎講座の取り組みから、第21回日本介護福祉教育学会、2014.

鈴木俊文、立花明彦、瀧口晋、福祉施設における災害対応研修モデルの開発に向けた取り組み 震災ケースメソッドを活用した災害過程アセスメントツールの効果と課題、第21回日本介護福祉教育学会、2014.

〔図書〕(計2件)

鈴木俊文・立花明彦編著、みらい、災害時の介護 介護施設が巻き込まれる5つの変化、2014.

鈴木俊文著、ミネルヴァ書房、介護福祉学辞典『災害介護に関する研究』、2014、p194-195.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 俊文 (SUZUKI TOSHIFUMI)
静岡県立大学短期大学部・講師
研究者番号：60566066

(2) 研究分担者

立花 明彦 (TACHIBANA AKEHIKO)
静岡県立大学短期大学部・教授
研究者番号：20342082

瀧口 晋 (HAMAGUCHI SUSUMU)
静岡県立大学短期大学部・講師
研究者番号：90342302

(3) 連携研究者

()

研究者番号：